

## 第1回ワーキンググループ会議結果概要

日時	平成30年12月18日(火) 18:00~20:00
場所	仙石原文化センター 第2会議室
出席者	[一般出席者] 地域住民・事業者等8名 [アドバイザー] 全国地域PFI協会 PwC アドバイザリー合同会社 [町] 勝俣環境整備部長 小田

仙石原まちづくりプラットフォームの分科会であるワーキンググループの第1回会議を以下のとおり開催した。

### ○議題

#### (1) ワーキンググループの目的

本議題について、町から以下のとおり説明した。

- ① ワーキンググループは、プラットフォームの分科会として、主に仙石原の将来像となる「まちづくり計画」の素案を作成することを目的に創設した。
- ② ワーキンググループでの協議は、今後の仙石原におけるまちづくりを大きく左右することから、参加者は、少人数かつ今後実施されるまちづくり事業に主体的に関わる意思のある方に限定して募集した。
- ③ ワーキンググループで作成した素案を基に全体会議でまちづくり計画を確認共有し、計画に沿った形で空き店舗や公園の利活用といった事業を実施、実施結果を基に効果を検証した後に計画等を見直す、いわゆる PDCA サイクルで事業を進めたいと考えている。
- ④ 今回創設したワーキンググループは、計画検討に特化した組織と考えており、実際に事業を進める際には計画検討とは別に事業実施ワーキンググループを創設する必要があると考えている。

#### (2) まちづくり計画について

本議題について、町から以下のとおり説明した。

- ① まちづくり計画の協議にあたっては、プラットフォーム全体会議の参加者等から「まちづくりノート」によって意見を集め、それを基に大まかな方針やイメージ図

を作成することを予定していたが、意見を提出したのは3名のみという状況である。

- ② これまで提出された意見の中では、電線地中化や渋滞対策が必要との意見が複数あった。他には、乙女峠にある観光案内所はバスターミナル周辺にあった方がよいという意見や、バスターミナルの予定地である町有地は売却ではなく貸付けるべきという意見があった。

#### ○協議結果

議題に係る質疑等の結果、以下の8点を確認した。

- ① 仙石原のまちづくりを協議するための「まちづくり組織」が必要である。まずは、まちづくりの方向性や具体的に実施する事業について協議を行う「マネジメント組織」を作り、次のステップとして、事業を実際に実施するための「プロジェクト組織」が必要になる。プロジェクト組織には、事業を実施する関係者のみが参加する実行組織であることが望ましい。
- ② 町が小田急グループに対して行うバスターミナル予定地の処分(売却若しくは貸付)によって得られた利益は、何らかの形で仙石原地域へ還元する仕組みがあると良い。場合によっては、利益の一部をまちづくり組織の収入とすることも考えられる。
- ③ バスターミナルは、テナントビルのような内部で消費を生むような施設ではなく、あくまでバスの乗り換え及び案内等の必要最低限の機能にとどめることで、利用者が外へ出てくるような施設が望ましい。その流れを作るため、周辺を歩きたくなるような魅力的なまちにする必要がある。
- ④ 近年、仙石原においては宿泊施設の建設が相次いでおり、観光客や就労者が増加している。そこに勝機があるとみて、若者が町内に戻ってくる流れがあり、今後予定されているバスターミナル整備等によって、その傾向は強まると思われる。そういった若者が活躍できる場を整え、支援する体制を作る必要がある。
- ⑤ 仙石原におけるまちづくりは、人口増を目的とするよりも地域活性化を第一に考え、結果的に人口増に繋がったという形が理想的である。箱根町は昼間人口が夜間人口を超える数少ない町であり、その特徴を生かして地域にお金が落ちる仕組み作りを考える必要がある。
- ⑥ 登山客からは入浴したいというニーズがある。仙石原公園にあるいこいの家は、老朽化して改修の時期を迎えていることから、それらのニーズを考慮しながら民間事業者と連携して改修を行うことも考えられる。

- ⑦ 仙石原は、エヴァンゲリオンに関連する名所が多いことから、必要に応じてまちづくりへその要素を取り入れることで集客に繋げるも考えられる。また、その集客力を十分に活用するため、地域と行政、双方が協力する体制を整えていく必要がある。
- ⑧ ワーキンググループを含めたプラットフォームでの協議結果や決定事項等は、定期的に地域の各種団体への報告する必要がある。

<今後の予定>

1月23日(水) 第2回ワーキンググループ会議開催予定